

JES GROUP

証券コード 9249

日本エコシステム株式会社 2026年 9月期 3Q決算説明資料

2026年 08月 07日



2026 年 9 月期 3Q ハイライト

M&Aおよび既存事業の順調な伸展により増収増益。一方で、M&Aによる費用および第2四半期反動による第3四半期売上減少の影響等により売上、営業利益の伸びは鈍化

- ▶ M&A戦略により**売上高・営業利益共に増収増益**（詳細は4ページをご覧ください。）
- ▶ 成長戦略である**M&Aを当期累計4件実行**（詳細は11ページをご覧ください。）
- ▶ JICAを活用した**海外市場調査を開始**（詳細は14ページをご覧ください。）
- ▶ 個人投資家向け**福証IRフェスタ2026秋**への出展を決定（詳細は18ページをご覧ください。）

目次

01	2026年9月期 3Q決算概要	P03
02	2026年9月期 M&A・PMI	P10
03	トピックス・サステナビリティ	P13
04	事業開発・研究開発の状況	P22
05	株式情報・株主還元	P25
06	役員紹介	P29
07	会社概要	P32
08	Appendix	P51



2026 年 9 月期 3Q 決算概要

01

3Q 損益計算書サマリー

グループインしたJes東海通建・三進・カムラ技建が売上高・営業利益共に通期寄与。
全ての事業セグメントにおいて対前年比で売上高・営業利益共に増加基調を継続

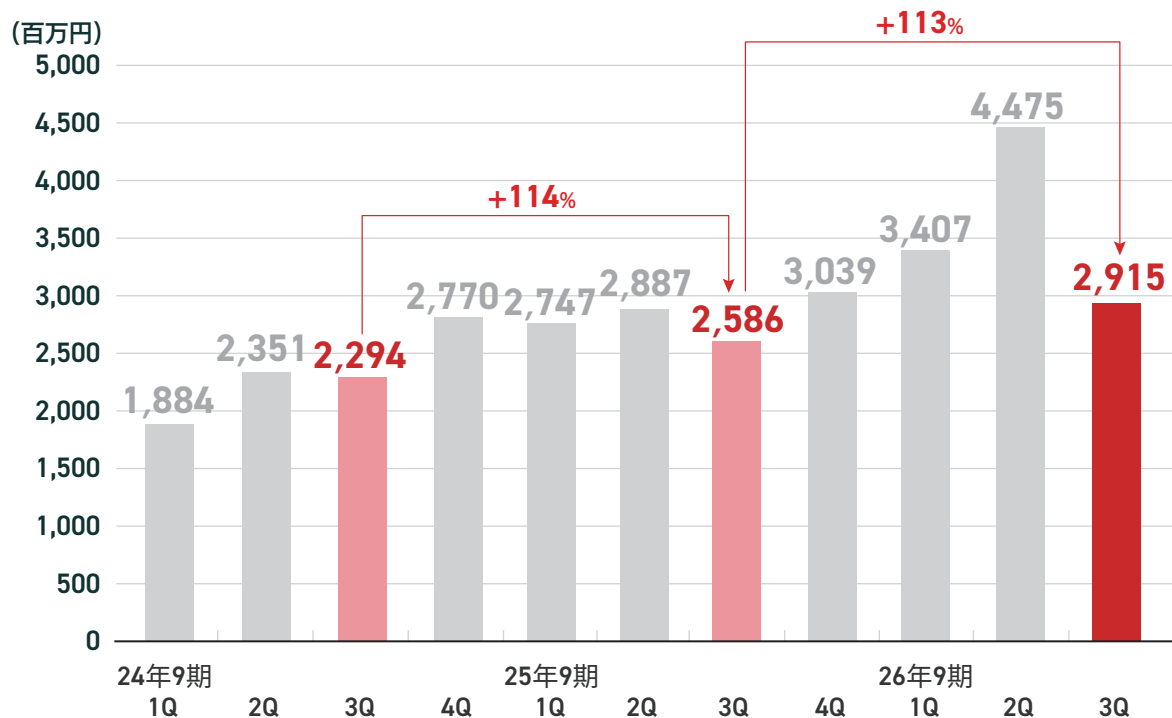
(百万円)

	2025年9月期 3Q実績	2026年9月期 3Q実績	対前年比	通期計画 2025/11/14公表	進捗率 対計画比
売上高	8,221	10,797	131.3%	14,200	76.0%
営業利益	313	1,068	340.8%	1,000	106.8%
経常利益	342	1,083	316.4%	1,000	108.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	413	754	182.7%	575	131.3%

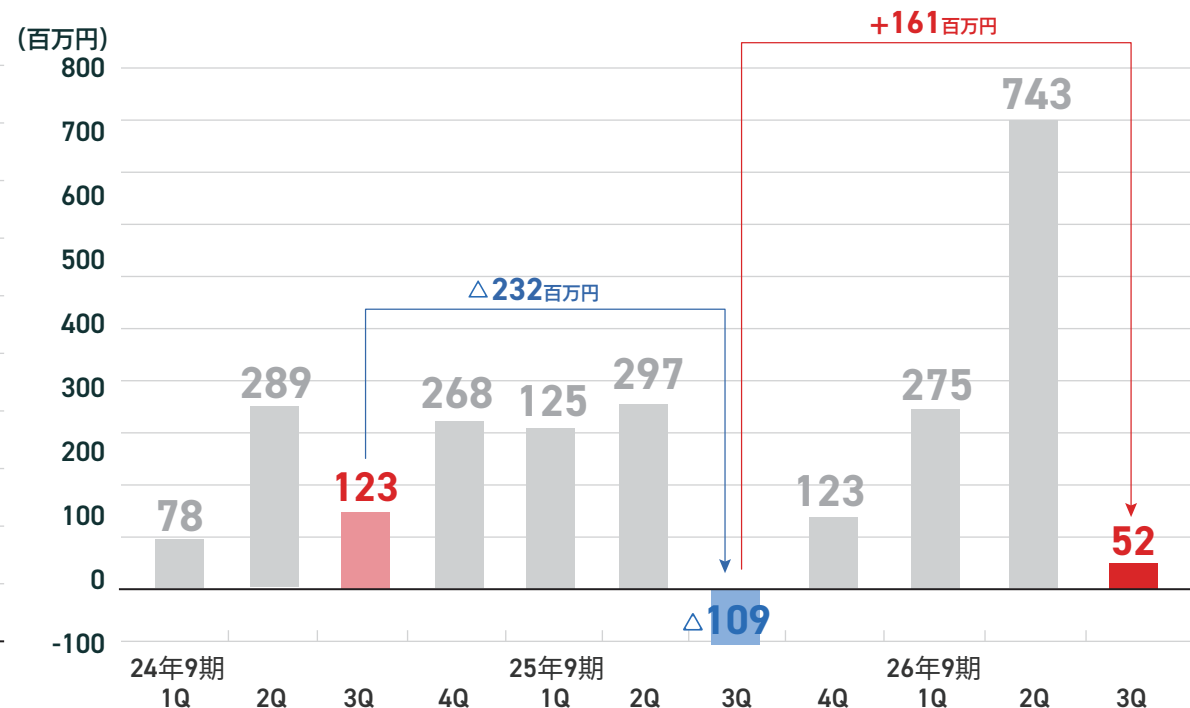
売上高・営業利益の四半期推移

M&Aの継続的実行により売上高は対前年同期に比べて順調に推移したものの、新規M&Aによる付随費用および第2四半期反動による第3四半期売上減少の影響等により営業利益は減少

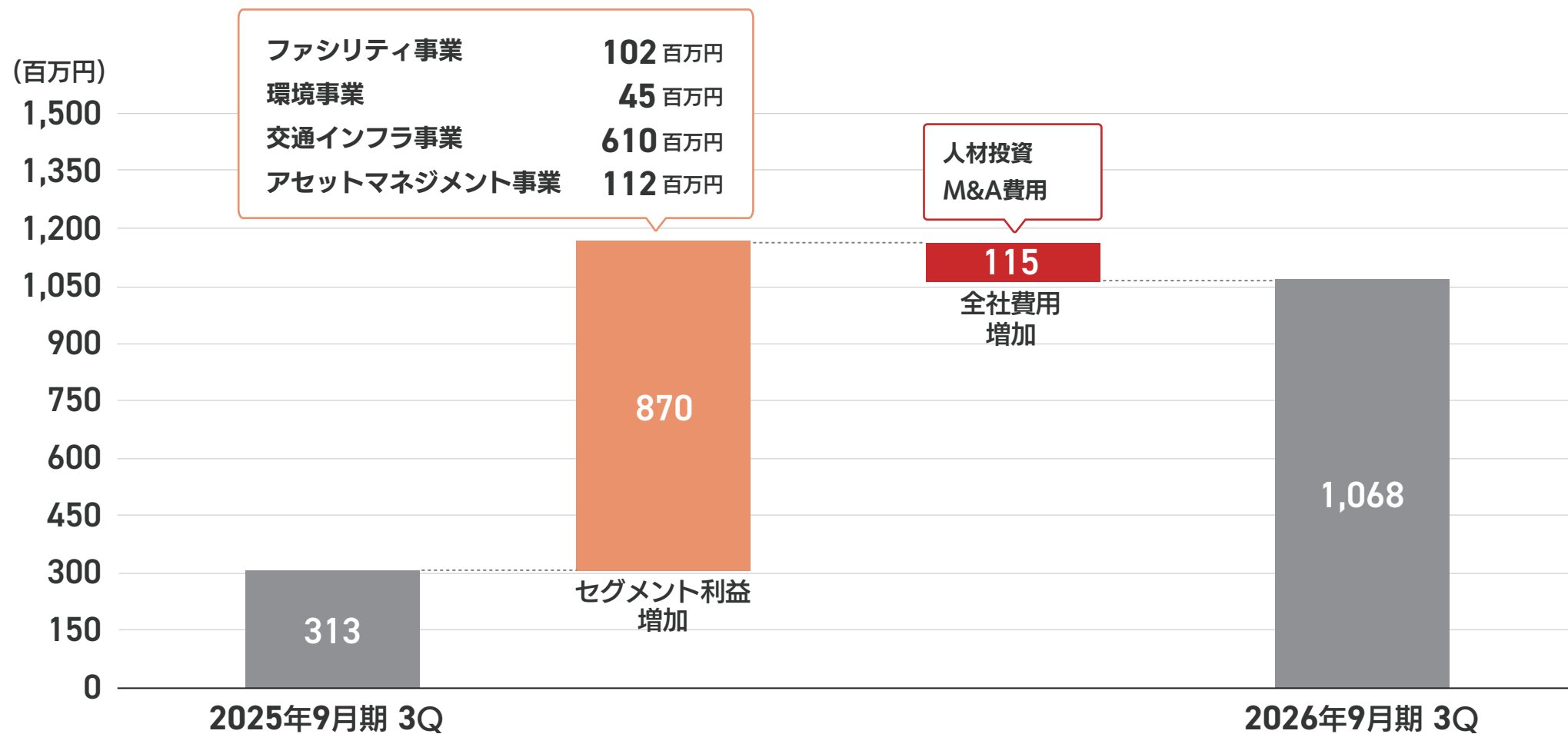
売上高の四半期推移



営業利益の四半期推移



3Q 営業利益の増減要因分析



01

3Q ファシリティ事業の売上高・営業利益

ファシリティ、公営競技関連、ICTソリューション

売上高

4,398 百万円 112.8%  UP

営業利益

530 百万円 124.0%  UP

対前年比



分析

- ① 空調給排水衛生設備の設計・施工・保全に関わる事業が好調
- ② 公営競技案件およびICTソリューション事業は堅調に推移



今後の取り組み

- ① 2026年4月においてJESファシリティーズと葵電気工業の統合により、空調給排水衛生設備事業の更なるシナジー効果の発揮
- ② 公営競技事業の営業体制強化

01

3Q 環境事業の売上高・営業利益

水循環システム・アクアリウム、産業用太陽光発電設備の施工

売上高

1,344百万円 112.3%  UP

営業利益

274百万円 119.8%  UP

対前年比



分析

- ① 水処理剤の事業規模拡大が順調に継続
- ② 産業用太陽光（再生可能エネルギー）発電設備が売上・営業利益共に順調に推移



今後の取り組み

- ① 環境事業に関する事業領域の拡充
- ② 人材確保による施工体制の強化

※LED事業の報告セグメントを交通インフラ事業から環境事業に変更したことに伴い、前3Qも変更後の区分により、比較しております。

01

3Q 交通インフラ事業の売上高・営業利益

施設（電気通信等）保全業務、道路保全業務

売上高

4,690 百万円 164.6%  UP

営業利益

1,042 百万円 241.4%  UP

対前年比



分析

- ① 2025年4月よりグループ化したJ e s 東海通建・三進および2025年10月よりグループ化したカムラ技建の通期寄与
- ② 高速道路運営事業者からの受注が堅調に推移



今後の取り組み

- ① カムラ技建、大鐘測量設計および通信テックプランニングとのグループシナジーの発揮
- ② 神奈川県に興電社・石川県のテッククリエイトの両拠点を活かしたエリア拡大
- ③ 技術者の獲得及び教育によりエンジニアリングサービスを強化

2026 年 9 月期

M&A・PMI

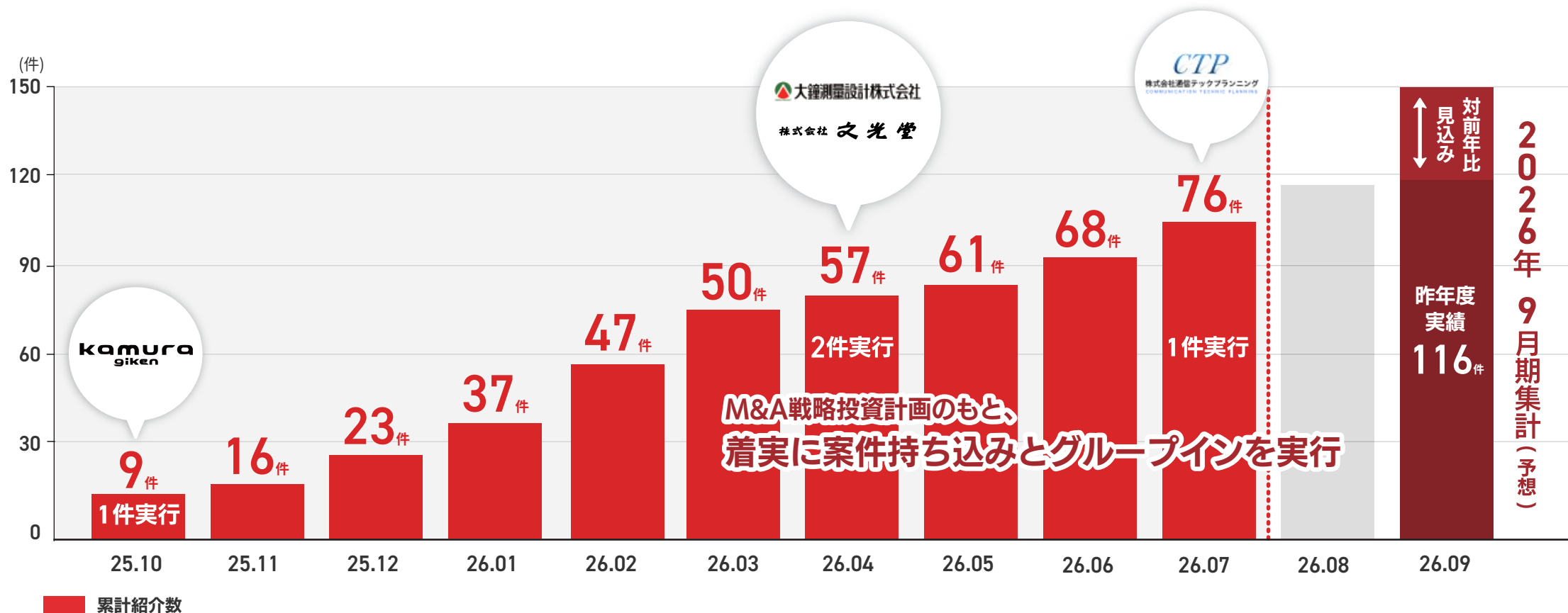
～ 2026/08/07 時点含む

02

2026年9月期 M&A案件累積推移

社内 M&A チームを組成し、オーガニック・インオーガニック両面での成長追求。

2026 年 9 月期 (26/8/7 時点) は **4 件の M&A を実行**。仲介会社や金融機関からの紹介案件も継続獲得中



02

通信テックプランニングのグループ化

放送局関連、携帯電話基地局、防災行政無線など、現代社会に不可欠な通信インフラ工事を事業とし、グループ会社のJes 東海通建とのシナジーを創出することで、交通インフラ事業の事業領域を強化



放送局関連工事



NHKをはじめとするテレビ局のアンテナ、鉄塔、送受信機の改修計画から設計・施工までを一括で対応。耐震対策にも十分に配慮し、安全性を徹底。

携帯電話基地局工事



KDDIなど既存の基地局でのアンテナや無線機設備の交換作業を実施。熟練の施工技術と最新知識を活かし、幅広い基地局工事に対応。

防災行政無線・その他工事



庁舎など公共施設の通信線路設備工事を実施。通信線路の敷設や設計に加え、パラボラアンテナ撤去、復旧工事、遠距離無線LAN工事にも対応。

シナジー効果

● 通信インフラの領域拡大

情報通信インフラ領域において、ネットワーク携帯電話基地局など通信キャリア設備工事を手掛けるJes 東海通建と連携し、通信インフラ分野での事業規模を拡大。

● 既存顧客や人材の共有

顧客基盤と有資格者の専門人材を相互に共有。事業運営の効率化を図るとともに、サービス品質の向上と新たなビジネスチャンスの創出。

トピックス・
サステナビリティ

～ 2026/08/07 時点含む



03

海外市場新規参入・JICA Biz

JICA（独立行政法人国際協力機構）の中小企業・SDGsビジネス支援事業である市場調査を開始。
合計5回の渡航調査を含む約1年間のプロジェクト（JICA Biz）制度を活用した海外市場への新規参入を推進

面 談



2回にわたるタイ訪問において、 31社・2機関との面談を実施

5月および7月に実施した2回のタイ訪問において、現地企業31社および国の機関2社と面談。現地の実態を把握し、協力の可能性について意見交換。

現 地 調 査



現地における太陽光発電所(SolarFarm)の 状況について、実態調査を実施

タイの各地で拡大が進む太陽光発電所(SolarFarm)などについて現地調査を実施し、設備の設置状況や運用環境の実態を確認。

今 後



残り3回の調査を通じて、 事業の実現可能性を最終的に判断

第3回の調査を10月に予定しており、残り3回の調査を通じて、太陽光発電所(SolarFarm)向けリパワリングEPC事業の実現可能性を明確化。

03

感謝状の授与

東海環状・東海北陸自動車道の 安全確保で感謝状を受賞

2026年5月19日、中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋様より、令和7年度の雪氷対策期間における当社の取り組みに対して、感謝状を拝受いたしました。この度の受賞は、東海環状自動車道での予防的通行止めや、東海北陸自動車道での迅速な通行止め措置、さらには適切な雪氷対策を通じて、社会的影響を最小限に抑えたことが高く評価されたものです。私たちの取り組みが「他の模範例」として認められたことを大変光栄に思うとともに、これからも地域社会の安全と安心を守るため、さらなる努力を続けてまいります。



JES FL Co.と宇佐美松鶴堂が連携 米国での新規修復事業に向けて

米国フロリダ州で日本文化の普及に取り組む「森上美術館・日本庭園」の館長が来日され、当社グループ会社である宇佐美松鶴堂（京都市）を訪問されました。今回の訪問では、同館所蔵品の保存修復について本格的な協議を開始しました。本件は、当社のグループ企業であるJES FL Co.（米国フロリダ州）がこれまで打診を続けてきた案件であり、長期的な取り組みの成果となります。今後、同館が所蔵する文化的価値の高い日本美術品を宇佐美松鶴堂の本社へ持ち込み、修復作業を行うに向けて同館との連携を継続します。

本プロジェクトを通じ、当社グループは日本文化財の保存と継承に寄与するとともに、国際的な文化交流の推進に貢献してまいります。



4市場上場を基盤に、 地域共創と成長への道を開く

2026年5月27日、当社は福岡証券取引所に重複上場をいたしました。これにより、東京証券取引所、名古屋証券取引所、札幌証券取引所、福岡証券取引所に上場し、さらなる認知向上と多様な投資家のアクセスを容易にしました。上場セレモニーでは、福岡証券取引所の犬塚理事長より有価証券上場通知書と「登り竜」の陶板を贈呈いただきました。また、当社代表取締役社長が挨拶を行い、今回の上場の意義や今後の展望について述べました。さらに、本則市場上場を記念し、銅鑼打ちの儀式も執り行いました。当社は、今回の上場を契機に、企業価値のさらなる向上に向けて取り組むとともに、株主の皆さまやステークホルダーの皆さまの信頼に応えてまいります。



個人投資家向け福証IRフェスタ2026秋への出展

個人投資家層との接点を広げ、 当社への認知と信頼感の向上を推進

2026年9月12日、福岡証券取引所主催の個人投資家向け会社説明会に出展いたします。本説明会は、福岡市中央区のTKPエルガーラホールにて開催され、個人投資家の皆さまを対象に、当社の事業内容や成長戦略、今後の展望について詳しくご紹介する予定です。今回はWEB配信を併用したハイブリッド形式での開催とし、より多くの投資家の皆さまにご参加いただける環境となっております。当社は、個人投資家との直接的なコミュニケーションを大切にしており、本説明会を通じて、当社のビジョンや事業の魅力をお伝えするとともに、投資家の皆さまからのご意見やご質問にお答えする貴重な機会と捉えております。今後も、投資家の皆さまとの関係構築を深め、企業価値のさらなる向上に努めてまいります。

リンク (<https://www.fse.or.jp/event/tdetail.php?tevt=%82U%82Q%82X&vyear=%82Q%82O%82Q%82U>)

福証IRフェスタ
2026秋
福証上場企業によるIRイベント

2026年
9月12日(土)
10:00~15:55
受付・接続開始: 9:30
閉場: 16:30

会場開催

TKP
エルガーラホール7階
福岡県福岡市中央区天神
1丁目4番地2号7階

WEB同時開催

Zoomで
ご視聴いただけます

参加者プレゼント

各社IR講演のご参加・ご観覧とアンケート回答で
Amazonギフト券(デジタルタイプ)
が当たる抽選にご参加いただけます！
※賞品賞金をご入力いただいた方には
ダブルチャンスも実施！
※詳細内容は裏面をご確認ください。

登壇企業・タイムテーブル

10:00 ~ 10:40	 (1959/建設業)	【登壇企業】株式会社クラフティア (旧: 株式会社九電工) 【プレゼンター】 IR課長 湯川 朝久 様
11:00 ~ 11:40	 (9065/陸運業)	【登壇企業】 山九株式会社 【プレゼンター】 コーポレート・コミュニケーション部 IR担当 本橋 優 様
13:15 ~ 13:55	 (280A/卸売業)	【登壇企業】 株式会社 TMH 【プレゼンター】 取締役 経営管理部長 関 真希 様
14:15 ~ 14:55	 (2009/食料品)	【登壇企業】 鳥越製粉株式会社 【プレゼンター】 代表取締役会長兼社長 鳥越 徹 様
15:15 ~ 15:55	 (9249/サービス業)	【登壇企業】 日本エコシステム株式会社 【プレゼンター】 管理本部上席執行役員 IR担当 吉田 豊 様

参加無料

事前申込制(会場・WEBとも)
お申込み・詳細は裏面へ▶

最新情報・詳細は
福証ホームページを
ご確認ください。

主催：証券会館法人 福岡証券取引所

地域と企業が共創する取り組み 4大会連続での協賛を推進

2026年5月に開催された「第48回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会 愛知県大会」において、株式会社AVANTIAとともに協賛いたしました。本協賛は、2025年8月29日（金）に愛知県スポーツ協会と締結した協賛契約に基づくもので、サッカー、剣道、軟式野球、バレーボールの4大会を通じて、地域の子どもたちの健全育成を継続的に支援する取り組みの一環です。本大会には、各地区大会から選出された16チーム、計258名の子どもたちが参加しました。当社は、表彰記念品の協賛に加え、優勝チームへの副賞としてお米を贈呈し、さらに全参加者への参加賞を配布いたしました。当社は今後も、CSR活動の一環として地域の子どもたちの健全育成を支援するとともに、スポーツを通じた交流の促進に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。



ソフトボールW杯日本代表優勝 羽島市での喜びの報告

2026年6月19日（金）、岐阜県羽島市の松井聡市長を表敬訪問し、日本エコシステム男子ソフトボール部に所属する帆足陽平選手が、日本代表チームの一員として優勝を果たしたことをご報告しました。当チームは、羽島市を拠点に活動しており、地域に密着したスポーツ活動を通じて、地域社会との交流促進と活力向上に寄与しています。帆足選手は、2026年4月25日（土）～5月3日（日）にコロンビア・シンセレホで開催された第2回 WBSC U-23男子ワールドカップに日本代表として出場し、見事、世界一に輝きました。当社は、スポーツを通じた地域社会との連携をCSR活動の重要な柱の一つと位置付け、若者が活躍できる環境づくりを支援しています。今後も、地域社会との協働を深め、スポーツを通じた持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



地元のお祭りの活性化を通じ、 地域との連携を強化

2026年7月23日（木）～7月26日（日）に開催された一宮七夕まつりに
いて、当社は地域行事の協賛活動を通じて、さらなる地域の活性化を目指
しております。さらに、当社本社ビルであるJES一宮ビル1階では、七夕の
短冊飾りイベントを実施し、地域の皆さまと交流を深める場を設けまし
た。また、一宮市民病院が主催する無料健康チェックイベントを開催し、
健康増進を推進する場として、多くの方々にご参加いただきました。
こうした活動を通じて、地域との絆をより一層深めるとともに、社会貢献
活動の一環として地元の活性化に取り組んでおります。当社は今後も、地
域の文化や行事を尊重し、地域社会との協力体制をさらに強化しながら、
持続可能な社会の構築に寄与してまいります。



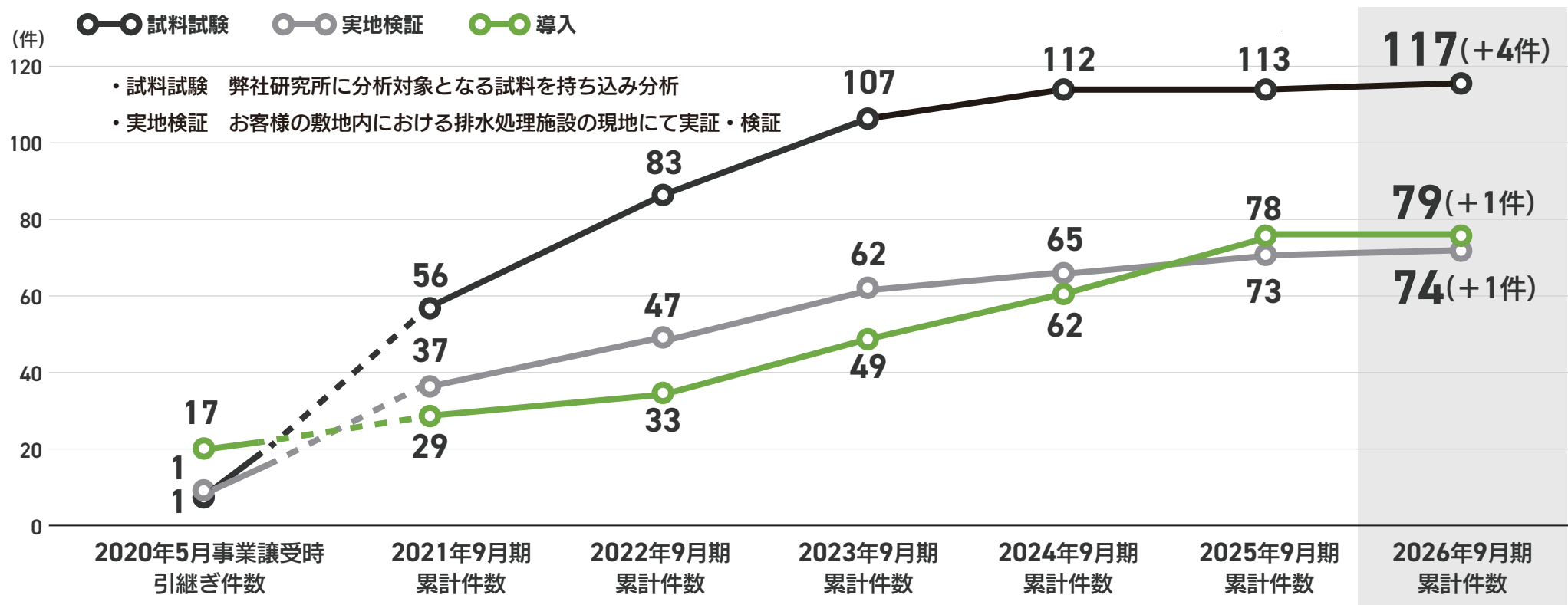
事業開発・
研究開発の状況

04

04

排水処理剤、試料試験・実地検証の件数推移

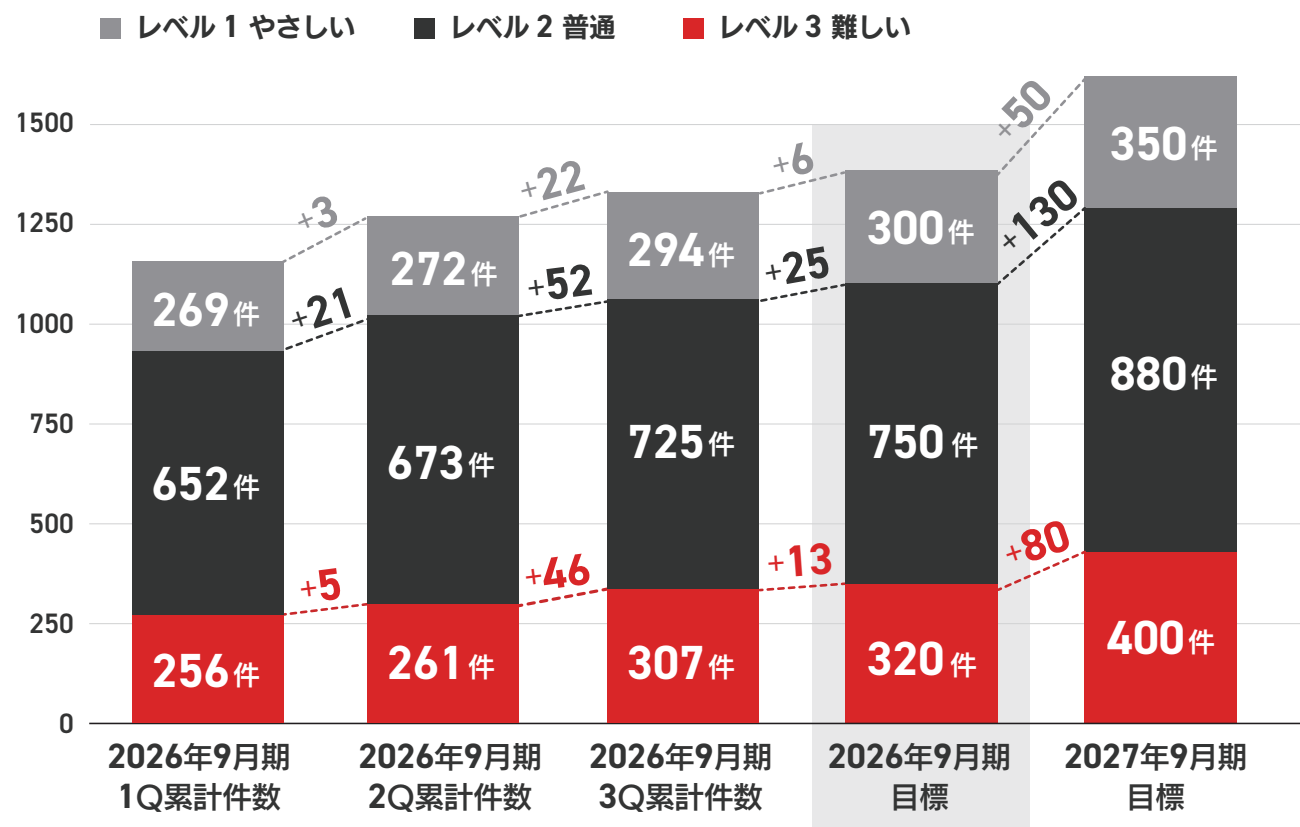
継続的な営業活動の推進により実地検証および導入の件数が拡大



04

JES グループ累計 資格取得数

グループ全体での資格取得推進を図るとともに、JES アカデミーを活用した実践的な教育に尽力し、後継者の育成とスキル向上を通じて、組織全体の発展に寄与



■ 2026年9月期

レベル1 294件 レベル2 725件 レベル3 307件

※なお、取得難易度に応じてレベル区分をしています。

累計件数

1,326 件

**2026 年 9 月期
株式情報・株主還元**

05

2026 年 9 月期は、年間配当を **18 円 / 株** へ増配予定。

上場以来継続して **4 期連続増配**。

第 2 四半期 中間配当を 9 円 / 株、期末配当を 9 円 / 株とし、

安定性・継続性のある累進配当に加え、**利回りを重視した株主優待制度**も継続して実施

2026年9月期（予想）

中間配当	9.00円/株
期末配当	9.00円/株

年間配当	18.00円/株
年間株主優待	30,000円 (クオカード)

2025年9月期

中間配当	8.66円/株 ※1
期末配当	9.00円/株

年間配当	17.66円/株
年間株主優待	30,000円 (クオカード)

※1 2025年4月1日をもって、当社株式を1株につき3株の割合で分割しております。当該分割後を基準に算出した数値を表示しております。

株主優待制度の変更（拡充）

株主様への還元強化を目的として、優待の対象範囲を保有株式数6単元以上から5単元以上へと拡充。
2026年3月末日現在の株主名簿に記載された株主様より適用



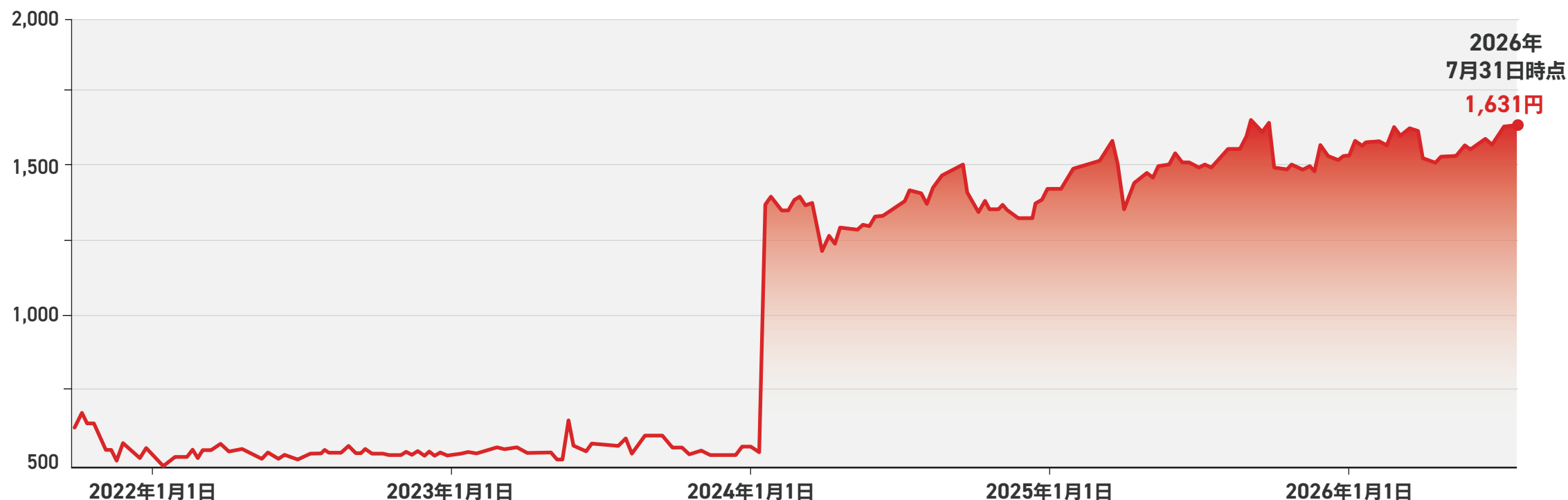
変更後 5単元（500株以上）

毎年3月末日 5単元（500株）以上
当社オリジナルQUOカード 15,000円分
毎年9月末日 5単元（500株）以上
当社オリジナルQUOカード 15,000円分

現行 6単元（600株以上）

毎年3月末日 6単元（600株）以上
当社オリジナルQUOカード 15,000円分
毎年9月末日 6単元（600株）以上
当社オリジナルQUOカード 15,000円分

株価^{※1}は約3年間で約2.3倍^{※2}に上昇。株主優待により株価急騰するも、その後も堅調に推移



※1 2025年4月1日をもって、当社株式を1株につき3株の割合で分割しております。当該分割後を基準に算出した数値を表示しております。

※2 上場時（2021年10月8日）と資料作成時点（2026年7月31日）の終値を比較しています。



役員紹介

06

社会・環境と共に発展できる 「エコシステム」の実現へ

社会への貢献を第一と考え、
多様化する社会のニーズに応え続けるために、
より一層の企業価値向上に努め、社会に必要とされ続ける
「300年企業」の創造を目指してまいります。

代表取締役社長 松島 穰



松島 穰
代表取締役社長



中村 成一
専務取締役
交通インフラ事業担当



奥村 泰典
常務取締役
ファシリティ事業担当



内田 敦
取締役
グループ会社事業推進担当
交通インフラ事業担当



稲生 篤彦
取締役
管理本部担当



瀧本 裕二
取締役
環境事業担当



杉戸 俊之
独立社外取締役



田野 好彦
独立社外取締役



伊東 史子
独立社外取締役



亀山 直人
取締役常勤監査等委員



加納 正二
独立社外取締役監査等委員

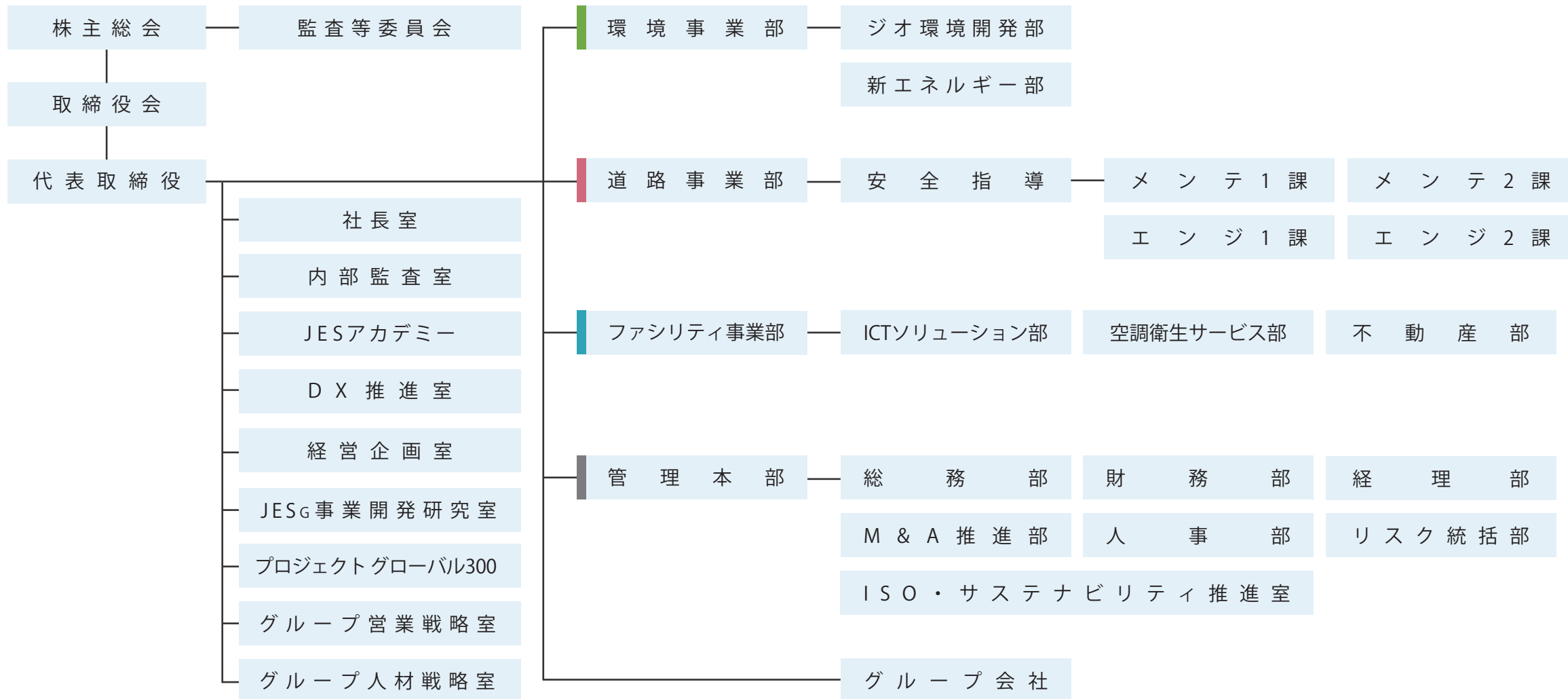


南 善隆
独立社外取締役監査等委員

会社概要

07

会社名	日本エコシステム株式会社	資本金	1,005,097,563 円 ※26/3/31 時点
会社所在地	愛知県一宮市本町 2 丁目 2 番 2 号 JES 一宮ビル 11F	決算期	9 月
代表者	代表取締役社長 松島 穰	発行済株式数	8,713,200 株 ※26/6/30 時点
事業内容	■ ファシリティ事業 防災合板の製造販売、空調給排水衛生設備の施工・管理、 公営競技場におけるトータリゼータシステムの設計・製造・販売・ 機器設置・メンテナンス、AI・ICT ソリューション ■ 環境事業 排水浄化処理および水循環・アクアリウムに関する事業、 再生可能エネルギー発電設備の開発・販売・設計・施工 ■ 交通インフラ事業 高速道路を中心とした電気通信設備・ETC保守、橋梁・構造物の 点検、道路・公共設備の照明灯工事、道路等の維持修繕工事	従業員数	連結 852 名（平均臨時雇用人員含む） ※26/6/30 時点
		監査法人	有限責任中部総合監査法人
		上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場 名古屋証券取引所 メイン市場 札幌証券取引所 本則市場 福岡証券取引所 本則市場
			



ファシリティ



6社

- ・日本ベンダーネット株式会社
- ・株式会社エコベン
- ・中央警備保障株式会社
- ・ベニクス株式会社
- ・OTS 株式会社
- ・JES ファシリティーズ株式会社

※1

交通インフラ

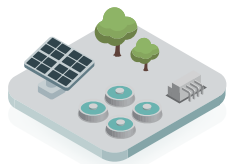


10社

- ・株式会社ワンズライフ
- ・株式会社テッククリエイト
- ・大鐘測量設計株式会社
- ・JES モビリティサービス株式会社
- ・Jes 東海通建株式会社
- ・株式会社通信テックプランニング
- ・株式会社日新ブリッジエンジニアリング
- ・株式会社三進
- ・株式会社興電社
- ・株式会社カムラ技建

※1

環境



1社

- ・JES テイコク株式会社

※1

アセットマネジメント

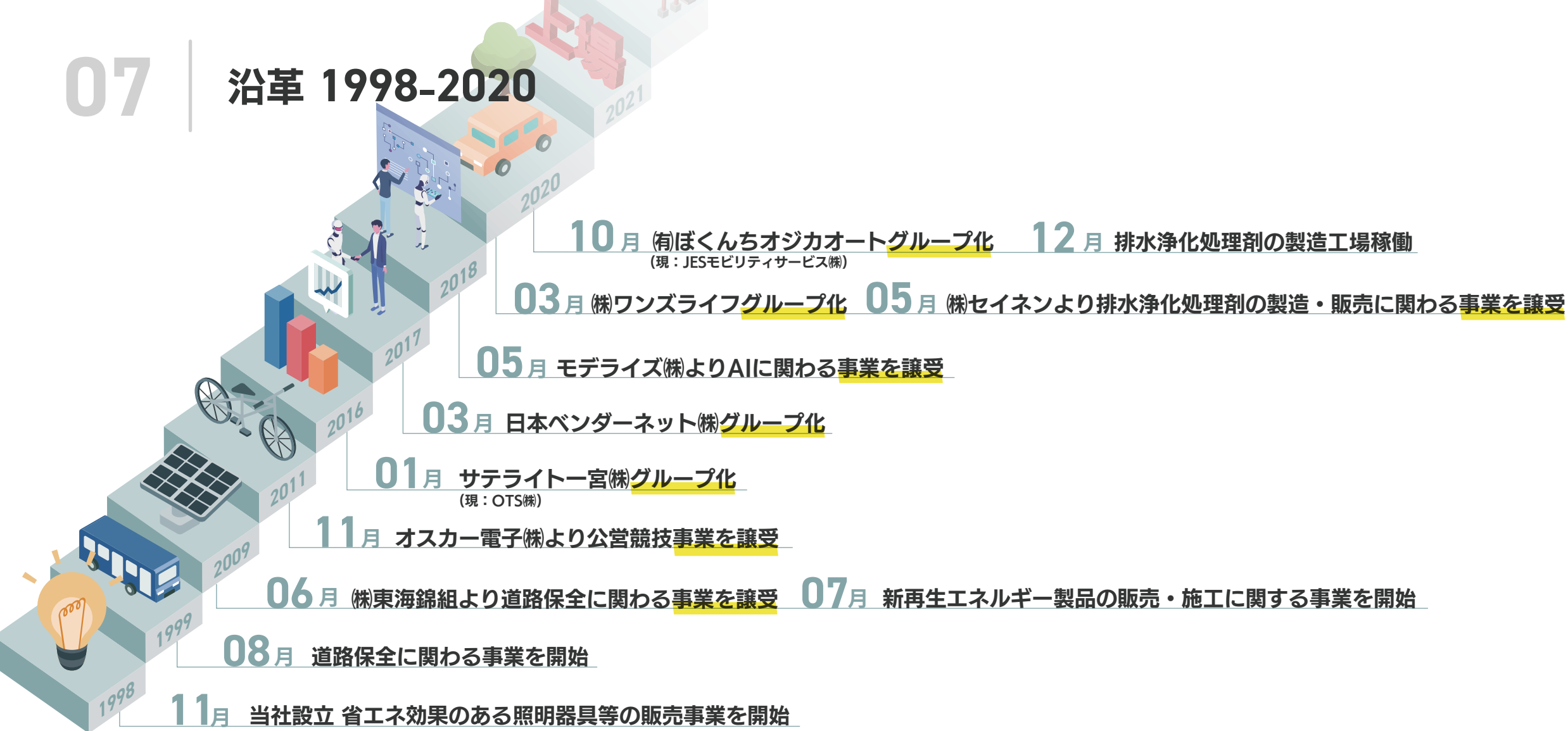


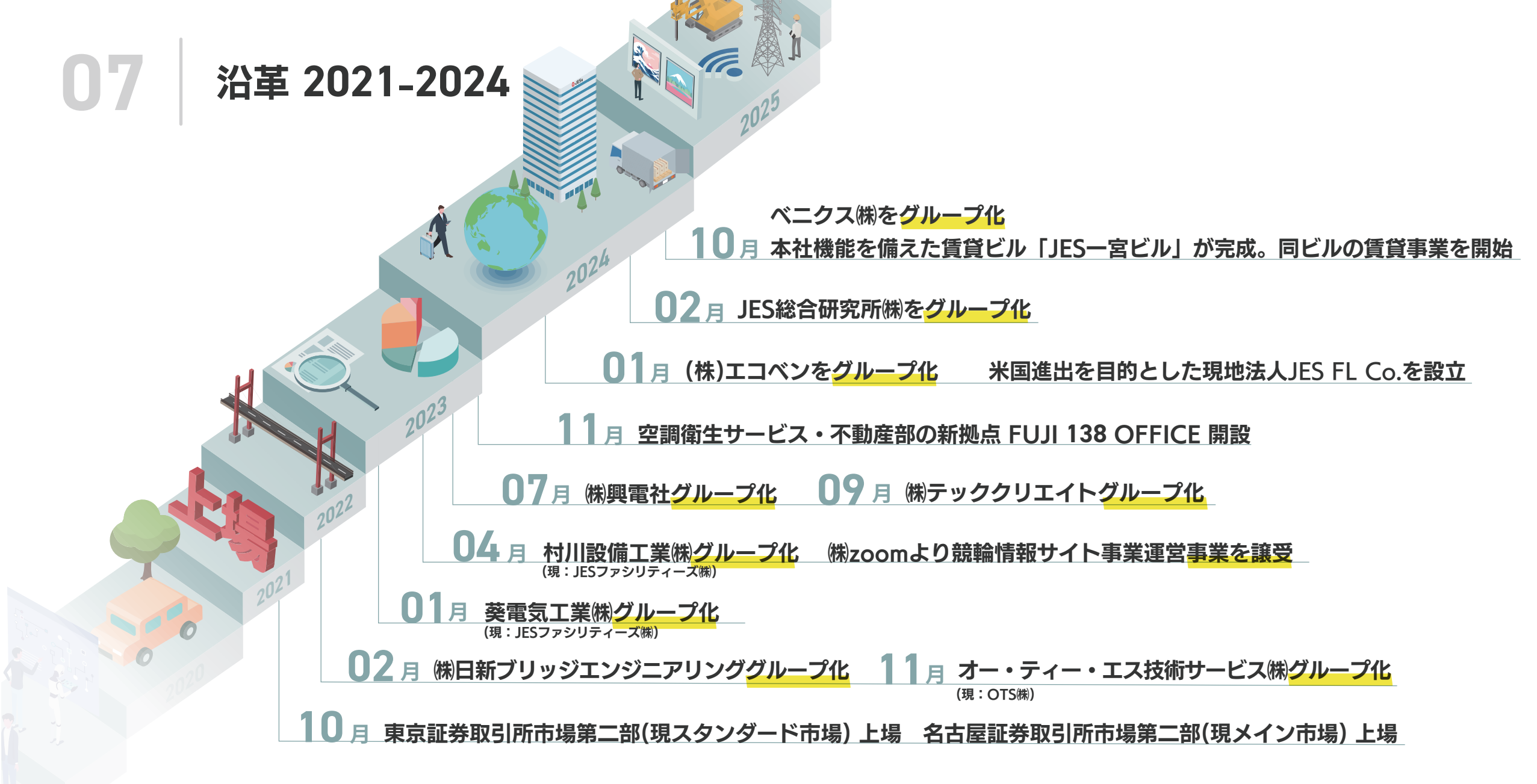
4社

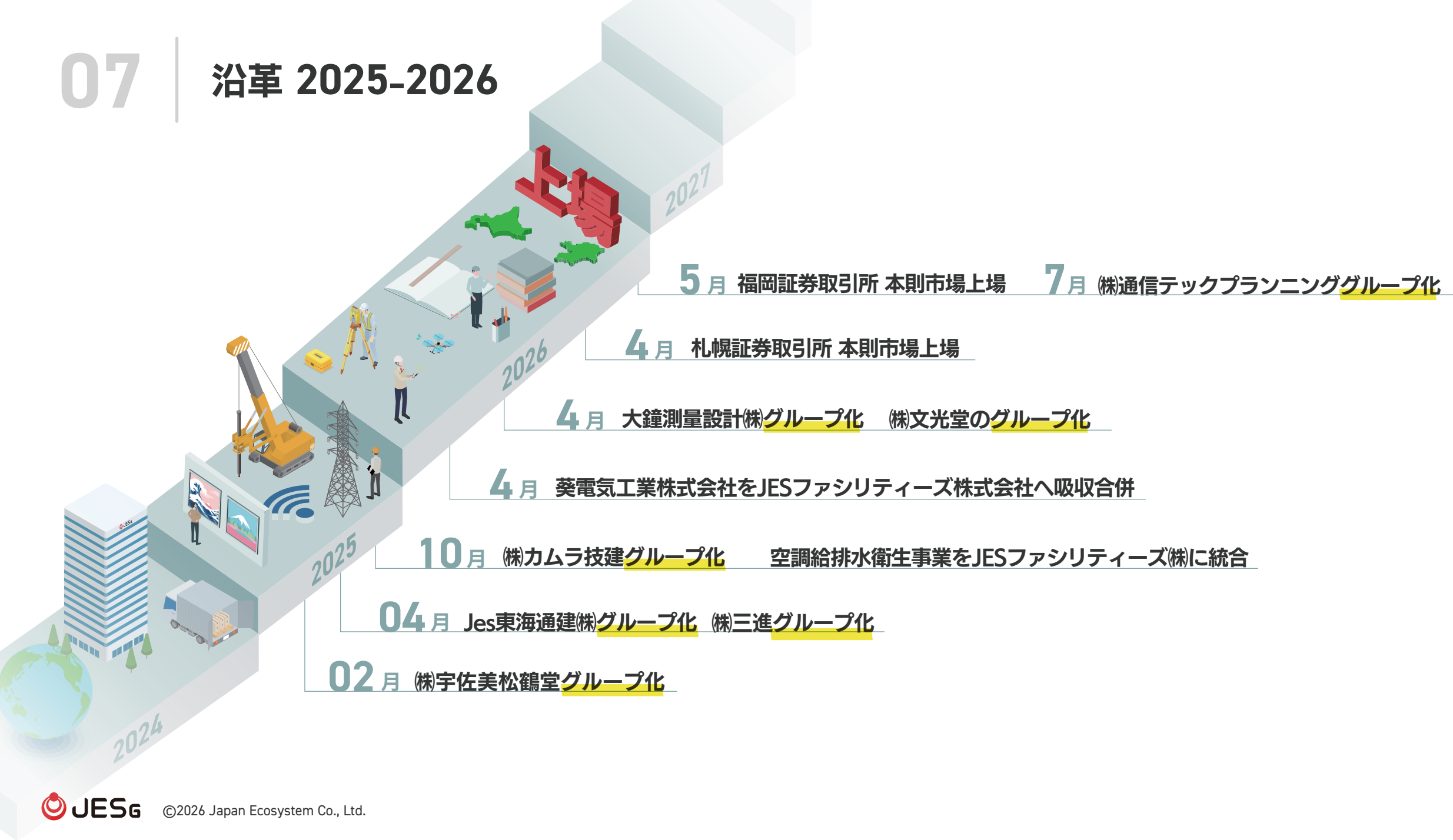
- ・JES 総合研究所株式会社
- ・JES FL Co.
- ・株式会社宇佐美松鶴堂
- ・株式会社文光堂

※1

沿革 1998-2020

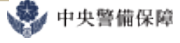






M&A および事業譲受の実績 26 件

上場前 9 件

1 (株)東海綿組 2009年6月 事業譲受	2 オスカー電子(株) 2011年11月 事業譲受	3  (現:OTS(株)) 2016年1月 グループ化(100%)
4  日本バンダーネット 2017年3月 グループ化(100%)	5  中央警備保障 2017年3月 グループ化(100%)	6 モデライズ(株) 2018年5月 事業譲受
7  one's life 2020年3月 グループ化(100%)	8  株式会社セイネン Seinen 2020年5月 事業譲受	9 BOKUNCHI オジカオート (現:JESモビリティサービス(株)) 2020年3月 グループ化(100%)

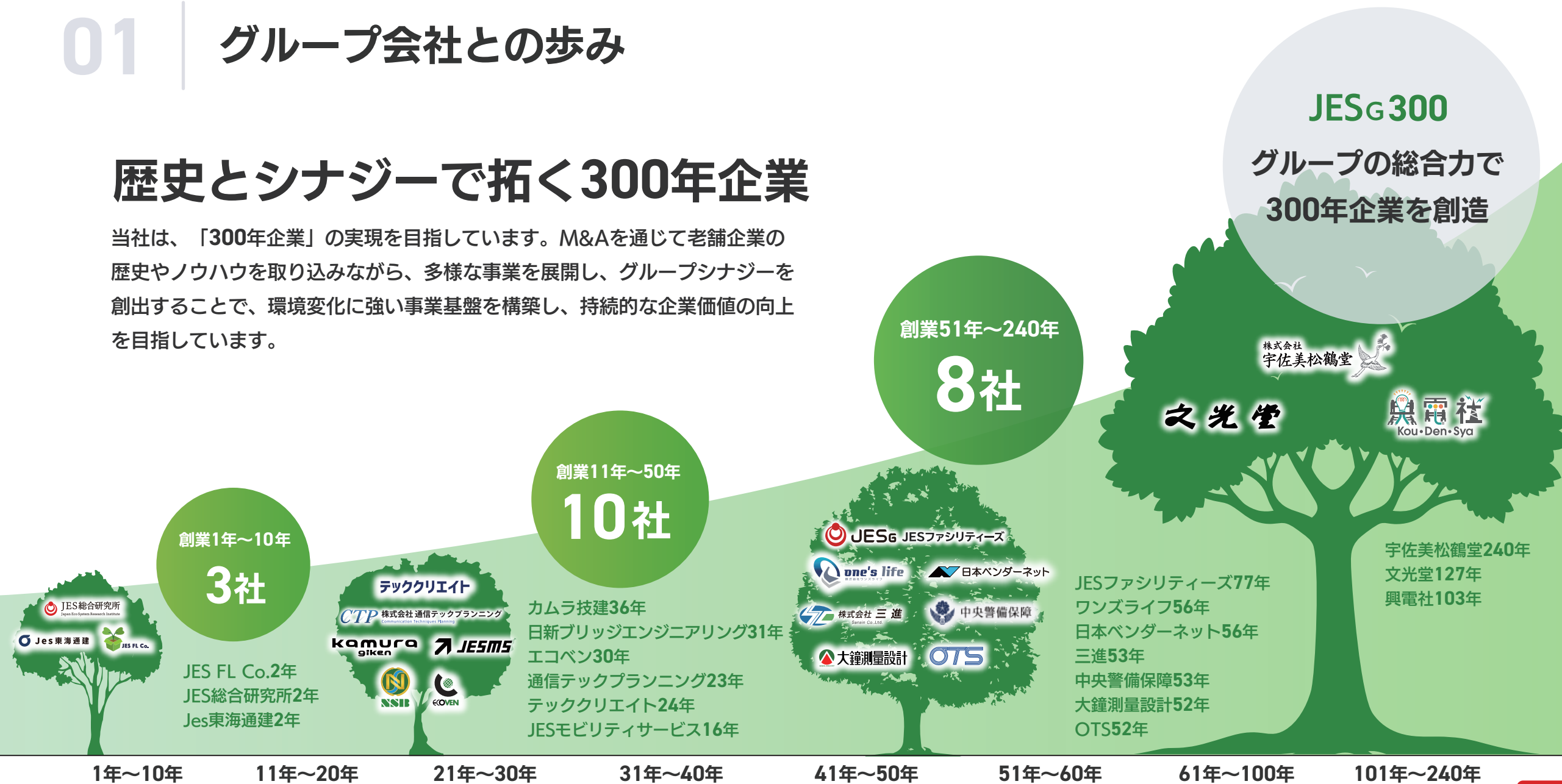
上場後 17 件

10  NSIB 2022年2月 グループ化(100%)	11  OTS 2022年11月 グループ化(100%)	12  菱電気工業 株式会社 2023年1月 グループ化(100%)	13  村川設備工業(株) 2023年4月 グループ化(100%)	14  zoom 2023年4月 事業譲受
15  興電社 Kou・Den・Sya 2023年7月 グループ化(100%)	16 株式会社 テッククリエイト 2023年9月 グループ化(100%)	17  EcoVEN 2024年1月 グループ化(100%)	18  JES総合研究所 Japan Eco System Research Institute 2024年2月 グループ化(100%)	19  VENIX Venix Co., Ltd. 2024年10月 グループ化(100%)
20 株式会社 宇佐美松鶴堂  2025年2月 グループ化(100%)	21  Jes 東海 通建 2025年4月 グループ化(100%)	22  株式会社 三進 Sanjin Co. Ltd. 2025年4月 グループ化(100%)	23  kamura giken 2025年10月 グループ化(100%)	24  大鐘測量設計株式会社 2026年4月 グループ化(100%)
25 株式会社 文光堂 2026年4月 グループ化(100%)	26  株式会社 通信テックプランニング CTP 2026年7月 グループ化(100%)			

■ 事業譲受 ■ グループ化

歴史とシナジーで拓く300年企業

当社は、「300年企業」の実現を目指しています。M&Aを通じて老舗企業の歴史やノウハウを取り込みながら、多様な事業を展開し、グループシナジーを創出することで、環境変化に強い事業基盤を構築し、持続的な企業価値の向上を目指しています。



1年～10年

11年～20年

21年～30年

31年～40年

41年～50年

51年～60年

61年～100年

101年～240年

中部地方を起点に74拠点 M&Aで全国各地へエリア拡大

海外
グループ
1拠点



アメリカ グループ拠点

JES FL Co. 本社

九州
当社
1拠点



京都 グループ拠点

宇佐美松鶴堂 本社

中国・四国
グループ
6拠点



金沢 グループ拠点

テッククリエイト 本社

近畿
グループ
2拠点

東海・北陸
当社
11拠点

グループ
45拠点



愛知 FUJI 138 OFFICE

関東
当社
1拠点

グループ
4拠点

東北
グループ
2拠点



東京 グループ拠点

日本バンダーネット 本社

北海道
グループ
1拠点



愛知 一宮本社

〔 JESグループ共通社是 〕

み こう どう
未 晃 道

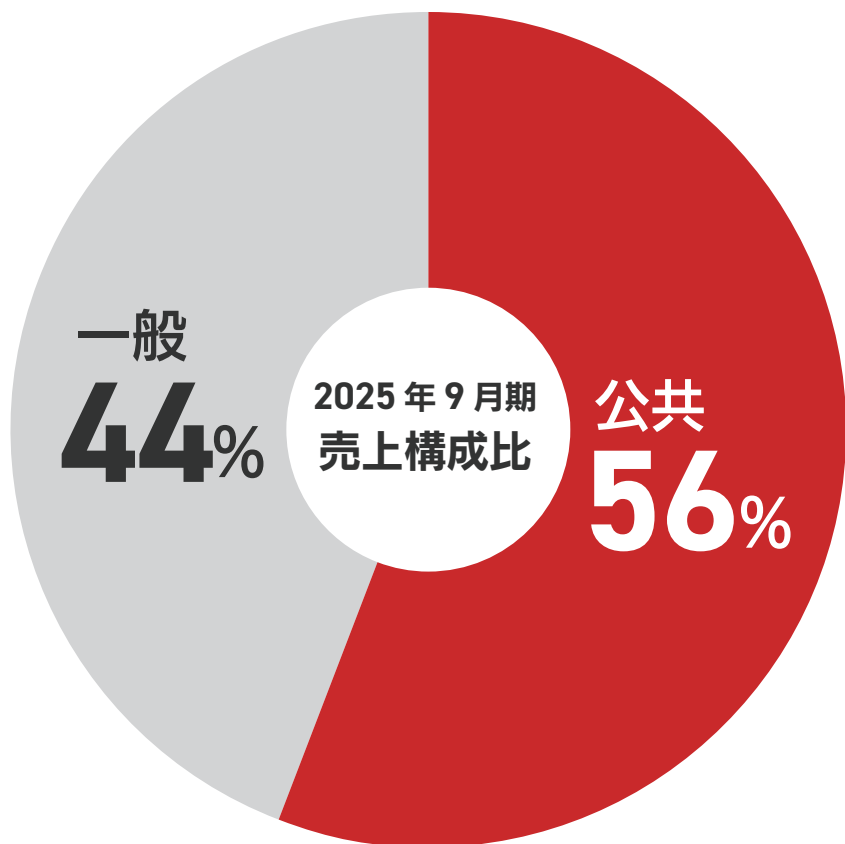
未来の地球を照らし、輝き続ける事業を創造します

〔 経営理念 〕

事業を通じ、物心両面の幸福を追求すると同時に、
かけがえのない地球環境の維持にも貢献します。

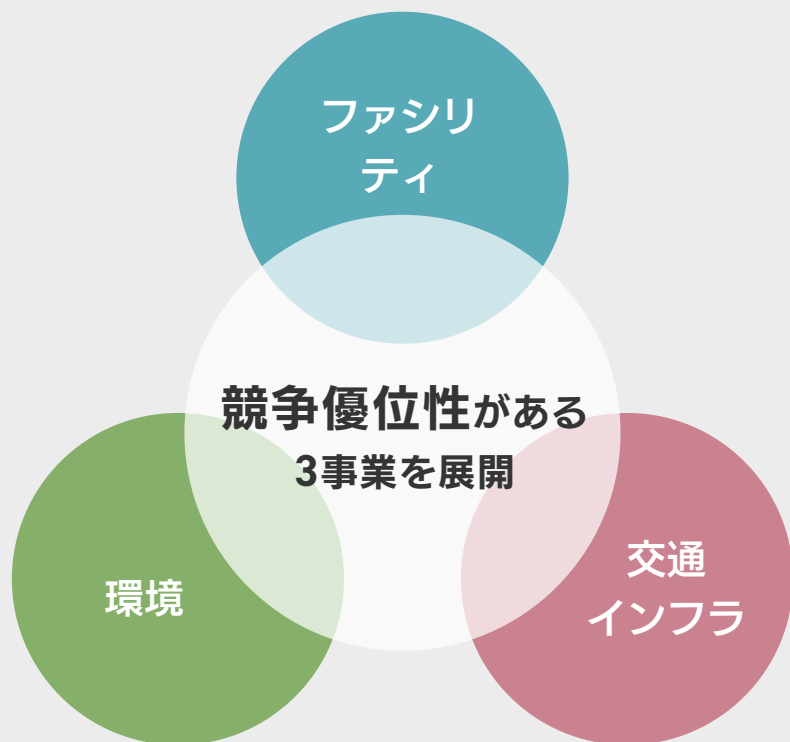


社会の課題を解決し、必要とされ続ける
300年企業を創造



BtoP (Public) を中心とした
安定性の高い領域で事業展開

当社グループは競争優位性がある
ファシリティ・環境・交通インフラの
3 セグメントより構成



ファシリティ

企業や自治体が使用する設備(空調給排水・電気・機器・木材等)といったハード面から公営競技運営・イベント企画・警備・AI・ICT等のソフト面まで幅広くサポート。

環境

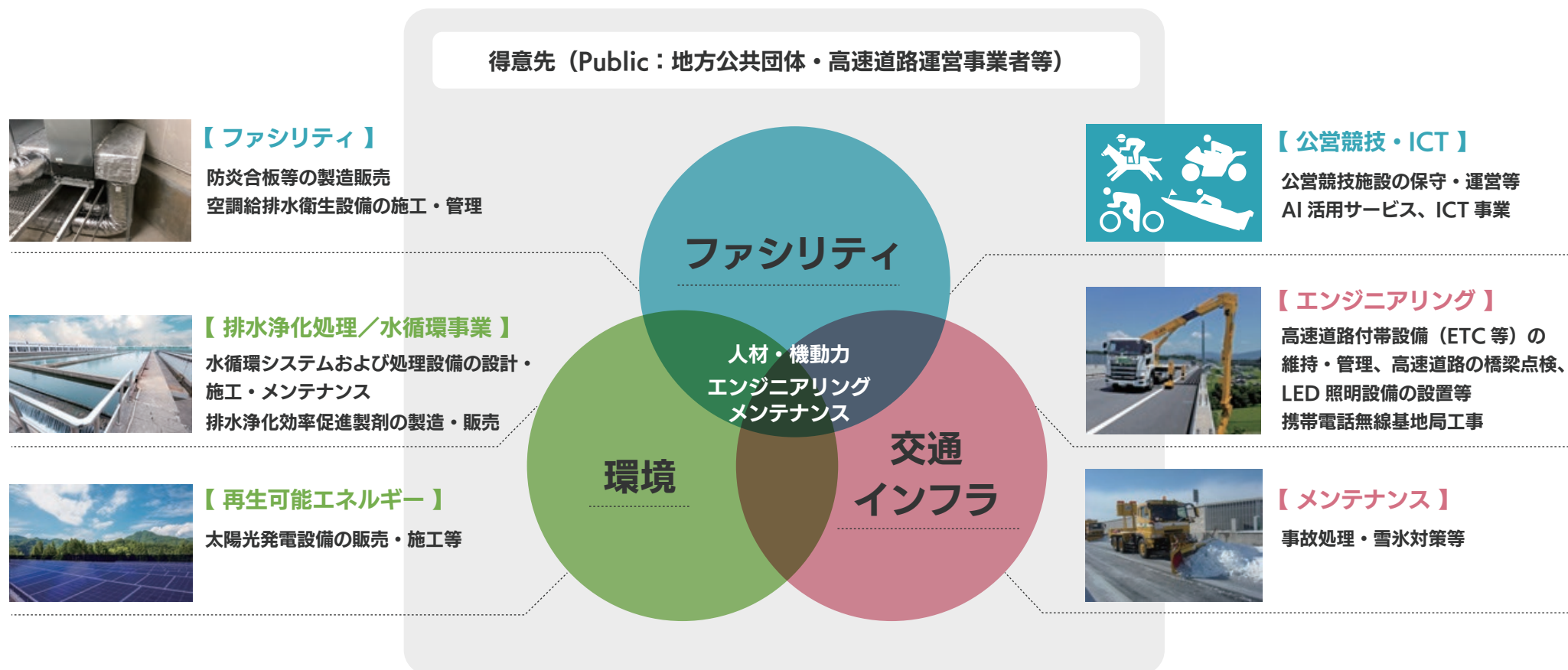
再生可能エネルギー事業に加え、排水処理事業・水循環事業を開始。
長期成長分野の事業として育成中。

交通インフラ

主に自治体・中部エリア高速道路運営事業者からの委託を受けて構造物点検や電気通信設備・ETC等の保守サービスを展開。高度な安全技術で高付加価値の高い収益性を実現。

当社グループと主要セグメント

エンジニアリング・メンテナンスを強みに公共施設・環境関連向け **「社会インフラサービス企業」** として事業展開

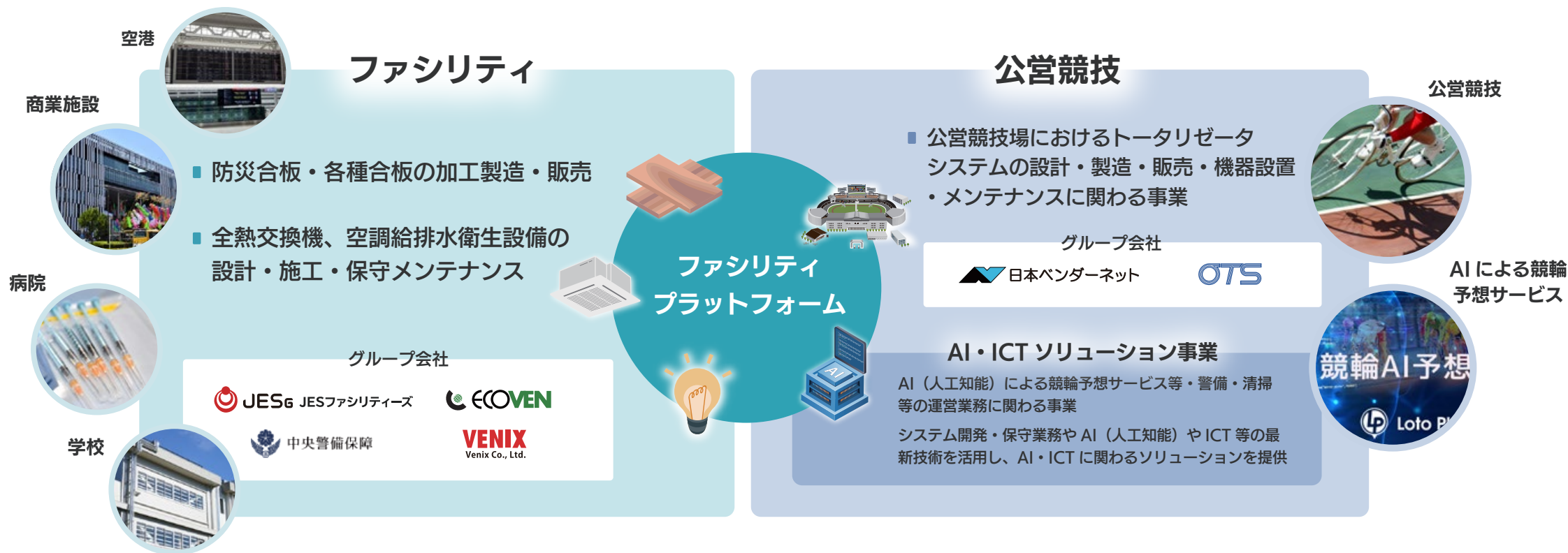


各事業分野のポジショニング - JESG VISION 2030 -

● ファシリティ事業 ● 環境事業 ● 交通インフラ事業 ● アセットマネジメント事業

注力分野 積極的な投資で事業拡大 	空調給排水 	道路エンジニアリング 	建設コンサル 	水族館 水槽・設備 	再生可能 エネルギー 
深化分野 効率化で収益性向上 	道路メンテナンス 	防災合板 パネル 	公営競技 	産業用 LED 	不動産 
長期成長分野 研究開発や新事業創出 	水処理 システム 	排水浄化 プラント 	AI・ICT ソリューション 	文化保全 	海外展開 

- ファシリティ事業では、地域社会の快適性・利便性向上に貢献する生活インフラサービスを提供
- 公営競技事業では、地域活性化に資する社会的意義の高い事業を展開



- 2020年より排水浄化処理事業を開始、長期成長分野の事業として育成中
- 産業用太陽光発電設備の施工および売電が現在の主力事業



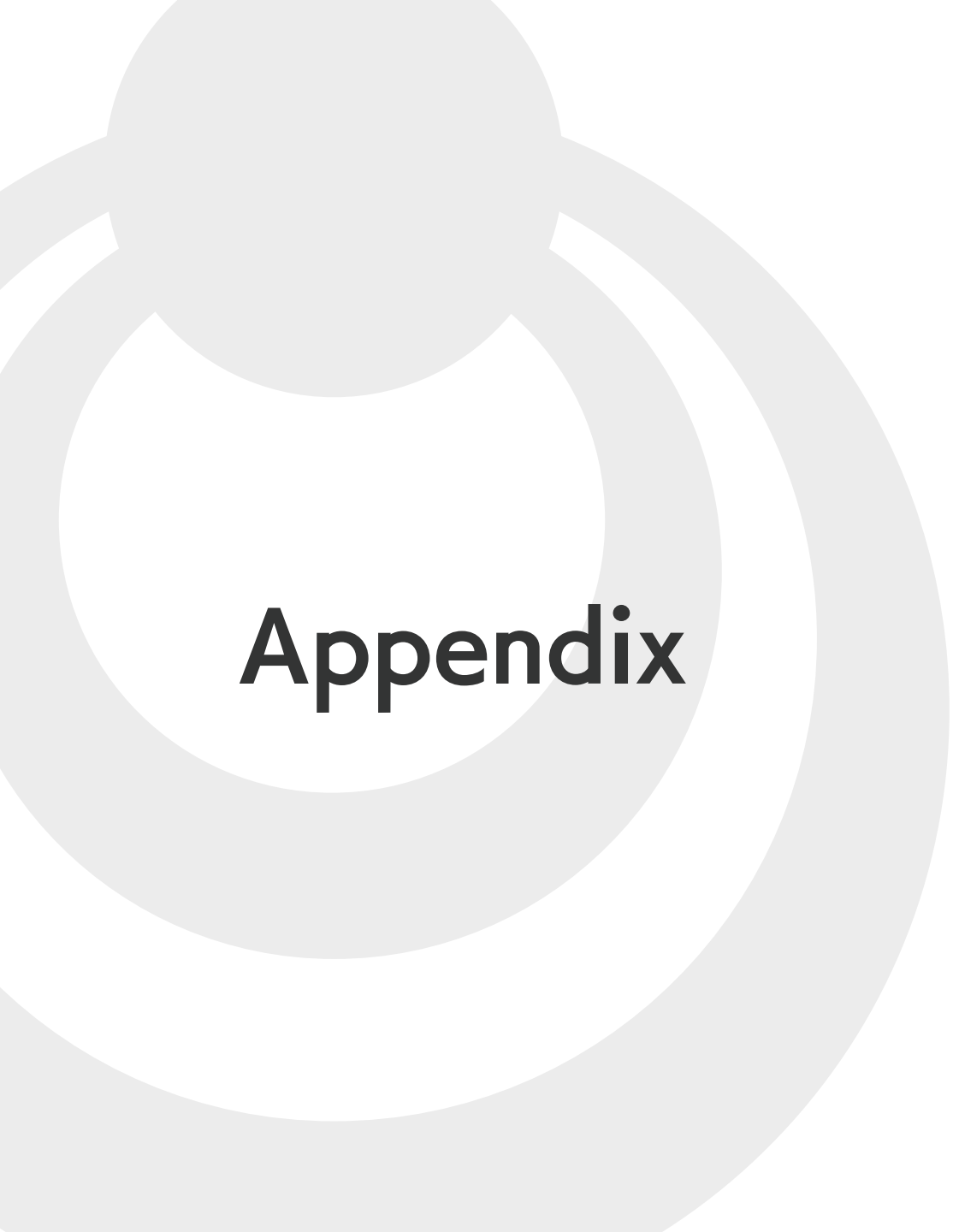
- 高速道路上のエンジニアリング&メンテナンスに特化
- 高度な安全技術で高付加価値の高い収益性を実現

地方公共団体
高速道路会社



JESグループ **10** 社
交通インフラ分野



A decorative graphic on the left side of the slide. It features a light gray sphere at the top, with two concentric circles below it. The word "Appendix" is centered within the space between these two circles.

Appendix

08

JICA「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」採択

採択内容と提案事業の概要

当社が提案した「産業用太陽光発電設備向けリパワリングEPC ニーズ確認調査」が、独立行政法人国際協力機構（JICA）の2025年度「中小企業・SDGsビジネス支援事業（JICA Biz）」に、2025年12月19日付で採択されました。本調査では、当社の産業用太陽光発電リパワリングEPCサービスのタイ国展開に向け、市場規模や法制度、競合状況の調査に加え、現地代理店候補の発掘・検討を行い、同国の再生可能エネルギー拡大に貢献することを目指します。

関連するSDGsビジネスの目標



現地調査

タイ

08

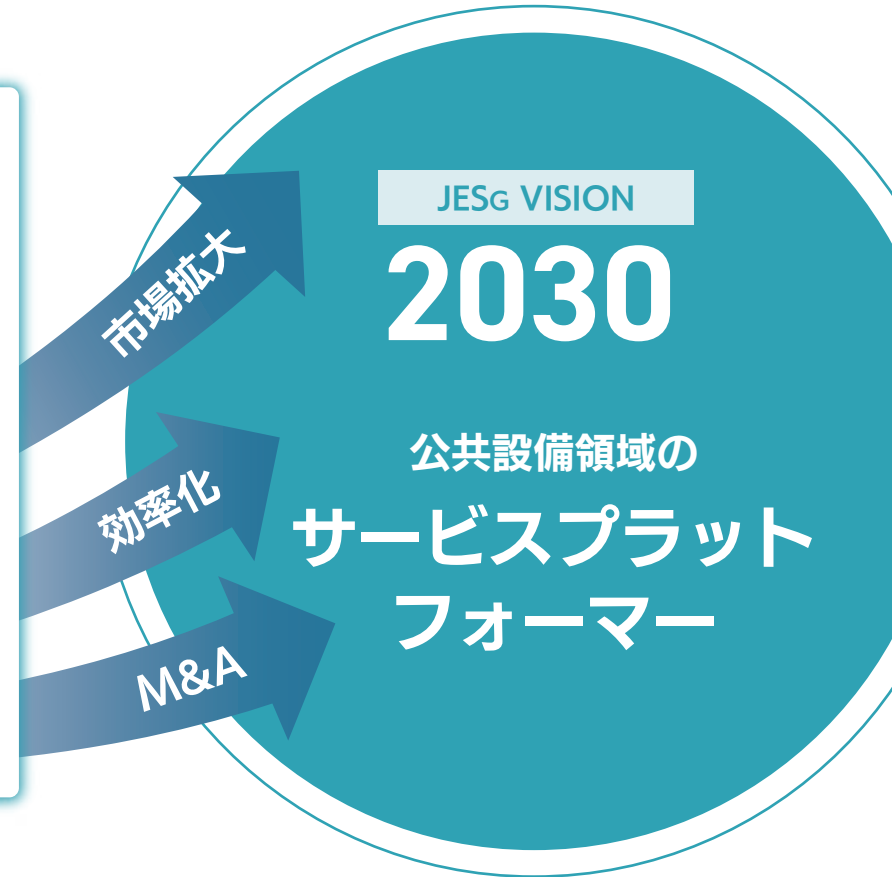
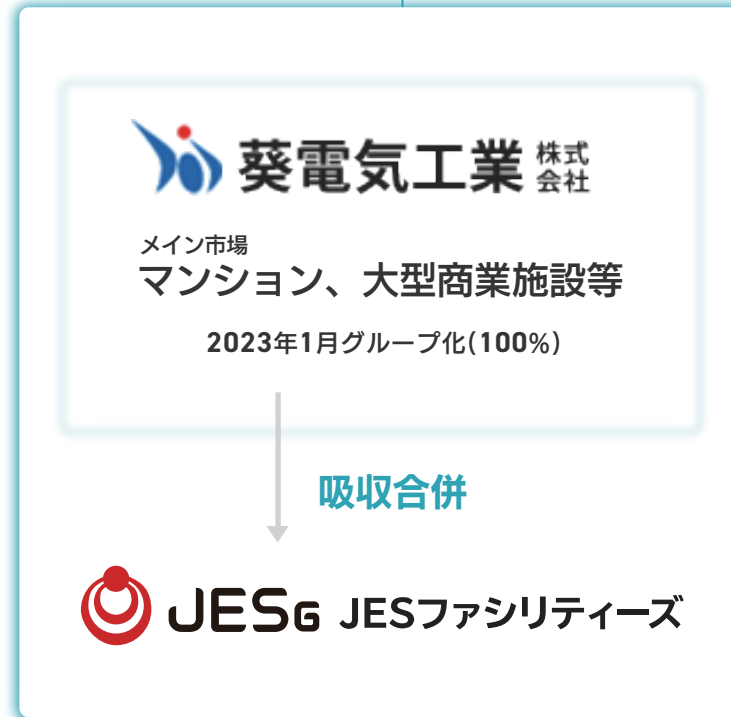
葵電気工業がJESファシリティーズに統合

今後の展開

ファシリティ事業のグループ集約を段階的に推進
公営設備領域のサービスプラットフォーマーへ

2025年10月

2026年4月



成長を加速する新拠点へ 浜松事業所移転

交通インフラ事業のさらなる成長と事業基盤の強化を目的に、浜松事業所は浜松浜北IC近くへ移転いたしました。本移転は、拡大する交通インフラ分野における需要への対応力を高めるとともに、現場対応力および機動力を一層強化するための戦略的な取り組みです。浜松浜北IC近くという高いアクセス性を備えた立地を最大限に活かし、迅速な意思決定と柔軟な事業運営を実現してまいります。また新拠点では、業務効率の向上にとどまらず、部門間の連携強化や人材の活躍を最大化する環境づくりを推進し、持続的な事業成長に向けた強固な基盤を整えてまいります。



地域とともに未来を育む スポーツ支援活動

当社は株式会社AVANTIAとともに、地域貢献活動の一環として、愛知県のスポーツ振興および地域活性化を目的に、2025年11月22日（土）・23日（日）開催の「第42回愛知県スポーツ少年団サッカー交流大会」と、2025年12月7日（日）開催の「第48回愛知県スポーツ少年団剣道交流大会」に協賛しました。両大会では、表彰記念品や副賞、参加賞の提供に加え、剣道大会では体験イベントも実施し、子どもたちや地域の皆さまがスポーツを通じて交流し、地域全体が一体となって盛り上がる場を創出しました。今後も地域に根ざした取り組みを通じ、次世代育成と地域活性化に貢献してまいります。



地域と繋がるJES一宮ビル アートプロジェクト

2025年11月8日（土）・9日（日）に開催された「BISHU FES.」において、京都芸術大学の学生による「JES一宮ビル アートプロジェクト」を実施しました。本プロジェクトでは、サーキュラーエコノミー（循環経済）をテーマに、和紙や卵殻、牡蠣殻などの自然素材を用いた大型アートを制作するとともに、廃材を活用したワークショップを行い、多くの来場者にアートづくりを体験いただきました。さらに、JES一宮ビル入口では地域と連携した展示や企画を実施し、持続可能な社会の実現に向けた当社の取り組みを発信しました。



08

アクアリウム新規案件 3 件

01

鳥羽水族館

(ペンギン水槽改修工事)

三重県の「鳥羽水族館」にて、ペンギン水槽の改修工事を受注いたしました。鳥羽水族館からは、これまでも希少淡水魚水槽などの継続的にご発注いただいております。



02

黒川自然公園センター

(両面ガラス大型水槽 2 槽運搬・搬入・据付)

兵庫県の「黒川自然公園センター」にて、大型水槽 2 槽の運搬・搬入・据付工事を受注いたしました。これまでにない規模の水槽案件となり、当社の技術力向上につながる貴重な実績となりました。



03

東山動植物園世界のメダカ館

(メダカ館飼育・展示施設製造及び設置工事)

愛知県の「東山動植物園 世界のメダカ館」における、メダカ館飼育・展示施設の製造および設置工事を受注いたしました。当施設での初案件となり、着実に当社の認知が広がっております。



静岡の地場有力企業の大鐘測量設計をグループ化

大鐘測量設計は、静岡県を中心に横浜にも拠点を構え、測量・設計コンサルタント業務を展開しています。地方公共団体や大手ゼネコンを主な取引先とし、50年を超える業歴を有しています。さらに、世界遺産のアンコールワットの修復工事や石川県穴水町の地震災害設計業務など、豊富な実績を有しており、当社グループが総合建設コンサルタントとして業務領域を拡大していくうえで、川上業務の強化へ直結。グループシナジーとしては岐阜県で建設コンサル業を行う日新ブリッジエンジニアリング及び三進との既存顧客との相互活用や受注可能な業務規模の拡大を見込んでいます。



大鐘測量設計

測量・設計・補修・総合的なコンサル
主な取引先:地方公共団体や大手ゼネコン



建設コンサル事業の 3社連携でシナジー発揮

- 業務規模・範囲の拡大
- 既存顧客の相互活用
- JESアカデミーの活用



株式会社三進

企画・立案・調査・測量・補償・
計画・設計・コンサル

主な取引先:地方公共団体や高速道路運営事業者



日新ブリッジ

保全・調査・測量・計画・
設計・施工管理・コンサル

主な取引先:地方公共団体や建設コンサルタント



地域を盛り上げ 地域に貢献する企業へ

2026年4月1日、愛知県一宮市本町商店街に店舗を構える、地域密着型の文房具販売店である文光堂をグループ化しました。2026年に創業128年目を迎える老舗企業であり、主力事業としてオフィス向けの事務機器・事務用品を販売する「外商」を展開しています。当社は、地域とともに発展していく経営を目指しており、今回のグループ化もその一環であります。今後は、内装の大規模リニューアルや制服刷新など、これまで培われてきた魅力を活かしながら、より多くの方々に長い歴史を有する同社の価値を知っていただけるよう取り組んでまいります。

株式会社 文光堂



08

「海外事業3地域体制」構築に向けた第一歩を始動

市場調査の概要

2026年2月、JICAが主催する「中央アジアスタディツアー」に参加し、カザフスタン（2都市）、キルギス（1都市）での市場視察を行いました。同時にウズベキスタン（2都市）を当社独自に調査。その結果、当社の海外市場展開の対象地域として中央アジア地域の重要性を認識すると同時に、今後、米国市場、東南アジア市場に加え、中央アジア市場を含めた「海外事業3地域体制」の構築に向けた新規事業の開拓を進めてまいります



資源・エネルギー関連インフラ分野における
管理高度化および技術活用の検討を推進

中央アジア

東南アジア

都市インフラ維持管理・廃棄物処理分野に加え、
太陽光発電リパワリング領域での事業展開を検討



アメリカ合衆国

次世代技術を活用したインフラ維持管理領域での
事業機会創出に向けた取り組みを推進



上場を新たな起点に 地域経済への貢献を加速

2026年4月22日、当社は札幌証券取引所本則市場へ重複上場いたしました。当社グループは、北海道エリアにおける認知度のさらなる向上ならびに、株主・投資家・取引先をはじめとするステークホルダーの皆様との関係強化を目的として、札幌証券取引所への上場を決定いたしました。北海道は今後の事業展開において重要なエリアと位置付けており、地域に根差した成長戦略を推進してまいります。今回の重複上場を契機に、同地域における新たな取引先企業との関係構築や既存取引の拡充、人材採用力の強化、M&Aを通じた事業領域の拡大に取り組んでまいります。



第 60 回日本水環境学会年会におけるポスター発表

マロックス®マグキャリア®に関する
研究成果をポスター発表

2026年3月9日（月）～3月11日（水）に開催された第60回日本水環境学会年会において、当社開発の機能性環境材料「マロックス®マグキャリア®」に関する研究成果をポスター発表しました。本発表では、難分解性有機物および高窒素負荷廃水に対する有効性を検証し、産業排水処理の高度化・安定化に向けた技術的知見を提示しました。「マロックス®マグキャリア®」は、排水処理槽内の酸化還元環境に作用し、窒素挙動の改善を図る機能性環境材料です。従来の曝気制御を中心とした運転管理に加え、材料面から処理性能の向上と安定運用に寄与する新たなソリューションとして期待されています。今後も当社は、環境分野における研究開発を推進し、持続可能な社会の実現と事業成長の両立を目指してまいります。

リンク (<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04893/60b26b22/7276/41fb/8e2d/cfa02f06fcca/140120260306577208.pdf>)



08

中長期ビジョンの策定

社会・環境と共に発展できる
「エコシステム」の実現へ

2026年3月23日、当社は社会・環境と共に発展する「エコシステム」の実現に向け、中長期的な成長指針として「JESG中長期ビジョン」を策定いたしました。グループ20社の歴史と強みを活かした「群戦略」を推進するとともに、2026年9月期～2030年9月期の戦略投資計画では、M&A投資枠を100億円～300億円へ拡大し、持続的な成長基盤を強化してまいります。あわせて、人材育成や社会インフラサービスへの投資、サステナビリティ経営を推進し、売上高営業利益率8%～10%を維持しながら、企業価値の向上を目指してまいります。

リンク(<https://www.jp-eco.co.jp/ir/management/plan/>)

目次

✓ 長期ビジョン

✓ 中期ビジョン-JESG VISION2030

✓ M&Aの考え方



08

採用ページのリニューアル

人材獲得力の向上へ 採用ページを全面リニューアル

2026年3月31日、採用活動の強化および人的資本の拡充を目的として、採用ページをリニューアルいたしました。コンセプトは「100年先の常識を、デザインしよう。」とし、社会インフラを支える当社の仕事の意義や使命を発信しています。本サイトでは、各事業の紹介に加え、「エンジニアエコシステム」や教育・資格支援などのキャリアパス、社員インタビューを掲載し、当社の魅力や価値観を伝える内容としています。今後はコンテンツの拡充を進めるとともに、グループ全体への展開も視野に入れ、採用力のさらなる強化を図ってまいります。

採用ページ(<https://recruit.jp-eco.co.jp/>)



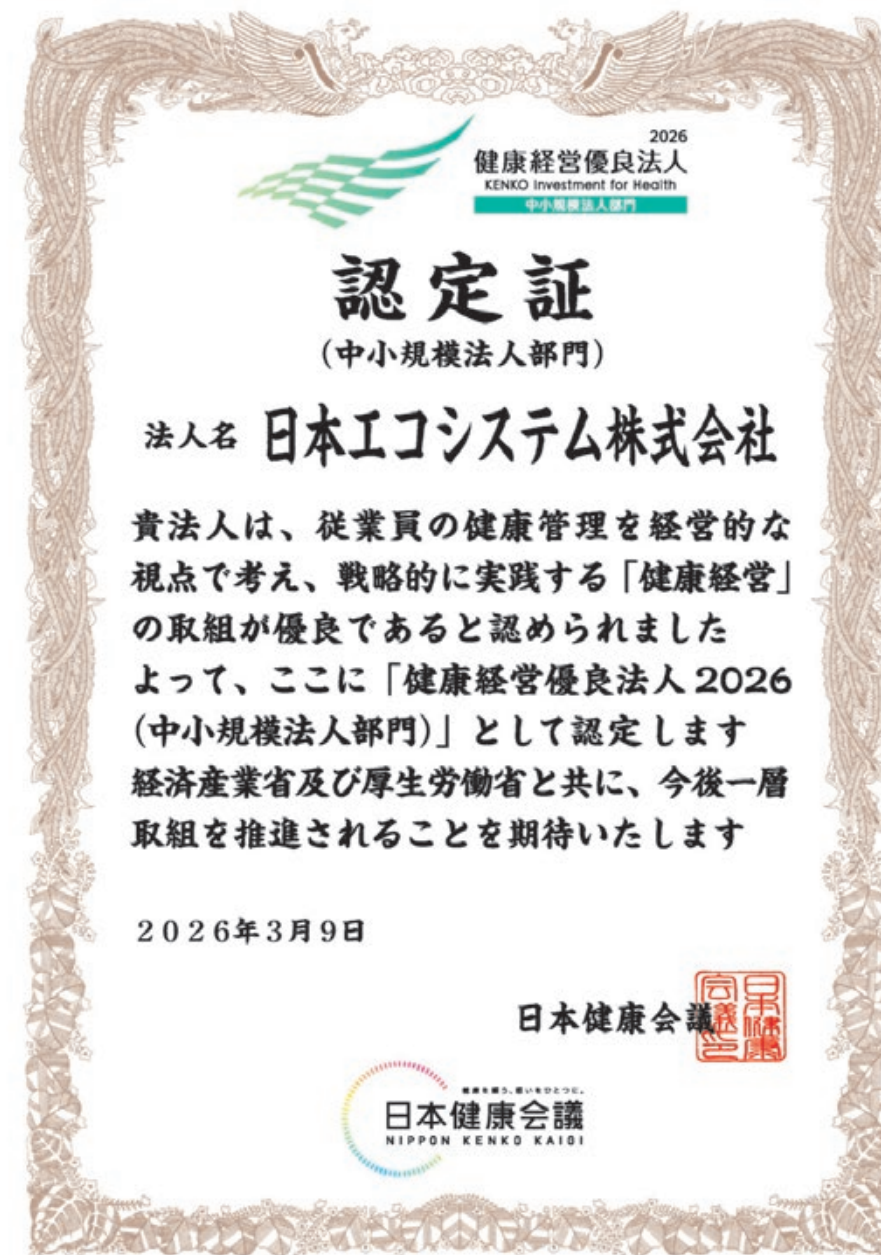
持続的な企業価値向上を伝える 統合報告書2026を公開

2026年4月30日、「統合報告書2026」を発行し、ホームページに公表いたしました。今回の発行をもちまして、統合報告書は4年目を迎えます。当社は創業以来、経済性と公益性の両立を重視した経営を実践してまいりました。こうした考えのもと、公益資本主義の理念を核とした中長期ビジョンを策定しております。本ビジョンでは、ステークホルダーへの貢献と利益成長の両立を目指し、時価総額500億円、連結売上高500億円以上、営業利益率8～10%を数値目標として掲げております。さらに、今後5年間で100～300億円規模のM&A投資を実行し、健全な財務基盤を維持しながら、既存事業の拡大とさらなる成長加速を図ってまいります。

リンク(<https://www.jp-eco.co.jp/ir/library/others/>)

健康経営優良法人2026に 6年連続で認定

2026年3月9日、経済産業省および日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2026（中小規模法人部門）」に、6年連続で認定されました。当社グループは、「社会の課題を解決し、必要とされ続ける300年企業を創造する」というビジョンを掲げています。目まぐるしく変化する社会情勢の中で持続的な事業成長（年輪経営）を果たすための最大の原動力は、当社にとって最も重要な「人材」に他なりません。社員一人ひとりが日々の仕事に誇りを持ち、楽しみながら能力を最大限に発揮できる企業風土を醸成するため、当社は優秀な人材が「ずっと働きたい」と思える環境づくりを重要な経営課題と位置づけ、以下のような健康経営の取り組みを推進しております。



日本学生レゴ部ユニオンより 当社ビルモチーフの制作・贈呈

2025年3月14日から3月16日に開催された「第1回日本学生ブロック作品展示会」への協賛に対する御礼として、日本学生レゴ部ユニオンより、当社ビルをモチーフとしたレゴブロック作品を制作いただきました。本作品は、約6か月の制作期間を経て完成したもので、約83cmに及ぶ迫力ある作品となっております。細部まで丁寧に再現された高い完成度から、学生の皆様の創造力と技術力の高さを感じる内容となりました。当社は、今回の取り組みを通じて学生の皆様との交流を深めるとともに、若い世代の挑戦や創造活動を応援しております。今後も当社ビルを活用し、大学との連携イベントや地域交流の機会を積極的に推進してまいります。



当社ソフトボール所属選手が U23世界大会優勝に貢献

2026年4月25日から5月3日にかけてコロンビアで開催された「第2回男子U23ワールドカップ」において、当社ソフトボールチーム所属の帆足陽平選手が日本代表選手として出場し、チームの初優勝に貢献いたしました。本大会では、世界各国の代表選手が出場する中、日本代表は決勝戦で前回大会優勝国であるオーストラリア代表と対戦。激戦を制し、見事、初の世界一に輝きました。帆足選手は投手としてチームを支え、日本代表の快挙に貢献しました。当社所属選手が、国際大会という世界最高峰の舞台で日本代表として活躍する機会を得たことを、大変誇りに思っております。また、2023年の「第14回男子U18ワールドカップ」においても、当社ソフトボールチーム所属の松尾唯斗選手が日本代表として出場しており、当社所属選手が継続的に世界の舞台で活躍しております。今後も当社は、スポーツ活動を通じた人材育成に取り組むとともに、日本国内のみならず、世界で活躍できる選手の育成・輩出に貢献してまいります。



WBSC
U-23 BASEBALL
WORLD CUP



地域に“にぎわい”を生む 人が集い交流が広がる憩いの場へ

当社グループのOTSが運営するサテライトー宮にて、2026年3月22日に「サテライトー宮フェスティバル」を開催しました。移動動物園やミニSL乗車体験、縁日など多彩な催しを実施し、親子連れをはじめ、普段サテライトー宮をご利用いただく機会の少ない方にも多数ご来場いただき、多くのご好評の声を頂戴いたしました。当日は地域の皆さまに気軽にお立ち寄りいただける機会となり、施設の新たな魅力を感じていただく場となりました。サテライトー宮では、こうした季節イベントに加え、ライブイベントなども継続的に開催しております。今後も、公営競技の予想施設としての機能にとどまらず、地域の皆さまにとって親しみやすく、憩いの場としてご利用いただける施設づくりを推進してまいります。



本資料における注意事項

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは
現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

本資料及び当社IRに関するお問合せ先 管理本部IR担当

☎ 0586-64-9249

✉ ir.jesg@jp-eco.co.jp